

脳原性運動機能障害用

(該当するものを○で囲むこと)

1 上肢機能障害

ア 両上肢機能障害

〈<sup>ひも</sup>紐結びテスト結果〉

1 度目の 1 分間 \_\_\_\_\_ 本

2 度目の 1 分間 \_\_\_\_\_ 本

3 度目の 1 分間 \_\_\_\_\_ 本

4 度目の 1 分間 \_\_\_\_\_ 本

5 度目の 1 分間 \_\_\_\_\_ 本

計 \_\_\_\_\_ 本

イ 一上肢機能障害

〈5 動作の能力テスト結果〉

a 封筒を<sup>はさみ</sup>鋏で切る時に固定する。 (・可能 ・不可能)

b 財布から硬貨を出す。 (・可能 ・不可能)

c 傘をさす。 (・可能 ・不可能)

d 健側の<sup>つめ</sup>爪を切る。 (・可能 ・不可能)

e 健側のそで口のボタンを留める。 (・可能 ・不可能)

2 移動機能障害

〈下肢・体幹機能評価結果〉

a つたい歩きをする。 (・可能 ・不可能)

b 支持なしで立位を保持し、その後  
10m 歩行する。 (・可能 ・不可能)

c 椅子<sup>いす</sup>から立ち上り、10m 歩行し (・可能 ・不可能)  
再び椅子<sup>いす</sup>に座る。 \_\_\_\_\_ 秒

d 50cm 幅の範囲内を直線歩行する。 (・可能 ・不可能)

e 足を開き、しゃがみこんで再び立ち上がる  
(・可能 ・不可能)

注 この様式は、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害に用いる。

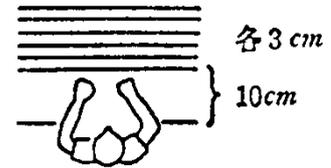
## 備考

### 上肢機能テストの具体的方法

#### ア 紐結びテスト

事務用とじ紐（概ね43cm規格のもの）を使用する。

- ① とじ紐を机の上、被験者前方に図のように置き並べる。
- ② 被験者は手前の紐から順に紐の両端をつまんで、軽くひと結びする。



- 注 ○ 上肢を体や机に押し付けて固定してはいけない。  
○ 手を机上に浮かして結ぶこと。

- ③ 結び目の位置は問わない。
- ④ 紐が落ちたり、位置から外れたときには検査担当者が戻す。
- ⑤ 紐は検査担当者が随時補充する。
- ⑥ 連続して5分間行っても、休み時間を置いて5回行ってもよい。

#### イ 5動作の能力テスト

##### a 封筒を鋏で切る時に固定する

患手で封筒をテーブルの上に固定し、健手で鋏を用い封筒を切る。

患手を健手で持って封筒の上ののせてもよい。封筒の切る部分をテーブルの端から出してもよい。鋏はどのようなものを用いてもよい。

##### b 財布から硬貨を出す

財布を患手で持ち、空中に支え（テーブル面上ではなく）、健手で硬貨を出す。ジッパーを開けて閉めることを含む。

##### c 傘をさす

開いている傘を空中で支え、10秒間以上まつすぐ支えている。立位ではなく座位のままでよい。肩に担いではいけない。

##### d 健側の爪を切る

大きめの爪切り（約10cm）で特別の細工のないものを患手で持つて行う。

##### e 健側のそで口のボタンを留める

のりの効いていないワイシャツを健肢にそでだけ通し、患手でそで口のボタンをかける。女性の被験者の場合も男性用のワイシャツを用いる。